羊ヶ丘養護園安全委員会だより

羊ヶ丘養護園　VOL. 34
平成31年2月6日　作成者　小野・湯口

第43回安全委員会が2月6日に開催されました

今回の定例会議では、平成30年10月1日から平成31年1月20日までに起きた、13件の処理対応ケースについて、暴言・暴力・威圧的な命令が起きたことを報告しました。今回報告したケースは、小学生のケースが9件で今後の対応について意見を頂くことができました。

～今回の安全委員会で話されたこと～

今回の安全委員会では、「安全委員会開設8周年記念号」の高校3年生の男子児童のメッセージがピックアップされました。彼はメッセージの中でこう語っています。

安全委員会を立ち上げた時は自分は小学4年生で、養護園は、喧嘩が多く泣き声や怒り声、暴力もあり、大きい子が怒って物にやつ当たりする姿をみて、小さかったぼくは、不安や怖いと感じることもありました。そんな環境を変えるために養護園に安全委員会ができました。はじめは、「なにこれ、意味ないべ」と思う子も多く、ぼくもその一人でした。

でも、安全委員会での先生方の対応のおかげとみんなの意識が高まり、年々暴力は無くなってきました。ぼくも養護園の生活の“安心・安全”が守られるようになり、いつしか不安はなくなりました。安全委員会は、ぼくたちの安心・安全な生活を守ろうと先生たちが作ってくれたのだと今は思います。安全委員会の学びの中で一番印象に残っているのは「**自分の嫌なことは人にしてはいけない**」という言葉です。当たり前のことですが大切なことを安全委員会からぼくは学ぶことができました。この言葉のおかげで、ぼくは人の気持ちを考えて行動するようになりました。最近、喧嘩をする小学生の姿をよく目にしますが、卒園するまでにこの言葉を後輩たちに教えていきたいです。これからの養護園が今よりも、もっともっと安心で安全な生活になるよう願っています。

この彼の想いについて澤委員長より「羊ヶ丘養護園がこの8年間の中で積み重ねてきた一つ一つの重みが感じられ大変心に響き感動しました。」と評価を受けました。みんなで頑張ってきたことが評価されることは大変嬉しいことです。これからも、子ども達の安心・安全な生活を作っていきたいと改めて感じました。

また、中学3年生の男子児童が**小学生が弾けていることに**腹を立てている様子があり、小さい頃の頃の自分の辛い気持ちを語り始めていることについて、そんな子どもの語りに職員が向かい合うことの大切さについても話し合いがされました。日常生活の子ども達との関わりが子どもたちの自立支援に結びつくのではないでしょうか。安心・安全な環境があるからこそ語りが出てくるのでないでしょうか・・・大切な時間にしましょう。

今回の報告ケースで、職員から子どもへの指導の在り方について報告をしました。ユニット化になり、新任職員の子ども間のトラブルの介入や指導に浴さない子どものへのかかわりに行き詰まりを感じること、ユニット内で起きていることが全体の職員と共有できないことで暴力問題をスムーズに解決できないなど安全委員会の取り組みの課題があることを改めて感じました。委員の方からは、なかなかうまくコミュニケーションが取れないことでトラブルが起きる子が多いことが、職員の負担になることがあるので、日ごろから子どもの特性を知りその子に合った関わりを探り合うことも必要ですとアドバイスを頂きました。今後、職員間で、子どもの指導の在り方について話し合える環境を持つ事、残念ながら不適切だと思われることが起きた場合は、安全委員会方式で正しく解決していく姿勢を職員がしっかり持つことで子どものケアが統一されたものになっていくのではないでしょうか。大切なことは、子ども側に立って考えていくことですね。

安全委員会方式で暴言、暴力の問題を解決し対応することは、もちろん継続して取り組むことですが、普段から子どもたちの様子を把握したり、気付いたり、子どもたちから生活の出来事等の話を聞いたり、気持ちを汲み取ったり、子どもたちと向き合ったり、時には楽しく遊んだり等の日々のケアがきちんと行われ、尊厳性を護り支援するということが、どんな支援を行うにしても基盤となっていることを改めて職員が意識して行い、自身の実践を振り返ることが大切だと感じました。今後も子どもたちと一緒に安心･安全な生活作りに取り組んでいきたいと思います。

指導部主任　湯口　智史

今年度は、安全委員会導入当時小学生だった子が卒業を迎え、安全委員会だよりにメッセージをくれました。そのメッセージの中に羊ヶ丘養護園の児童、職員が全員で積み上げてきたものが書かれていた事を澤委員長に評価してもらったことは一番嬉しく感じました。しかし、導入当時のことをよく知る子が卒園し、新しく安全委員会方式のことを知らない児童・職員が増えていくという現実的な課題にも直面します。この状況を打破していく為に職員児童一丸となって安心で安全な生活を作っていかなければならないと今回の会議で感じました。また頑張ろうと思います。

安全委員会課　主幹　小野　一貴